勝負師健在！上原が決めた

第61回全日本実業団剣道大会

富士ゼロックスの優勝を決めたのはチーム最年長37歳の上原祐二選手。
自身初の実業団日本一にして、最優秀選手賞も受賞した

平成30年9月17日（祝）
主催＝全日本実業団剣道連盟
日本武道館
取材・文＝岡井博史
撮影＝窪田正仁

優勝 富士ゼロックス（本社）
米満広将（23歳）、岩川力（29歳）、東郷知大（26歳）、上原祐二（37歳）、北川清太（26歳）。監督＝野口淳司（43歳）

富士ゼロックス（本社）に25年ぶりの栄冠

381ものチームがエントリーした実業団日本一決定戦は関東の強豪富士ゼロックス（本社）が制した。

決勝戦の相手は連覇を狙うパナソニック（ES本社）。一昨年はBチームの門真チームが優勝、昨年はAチームの本社チームが優勝、そして今回の決勝進出と近年の充実ぶりは目覚ましい。

決勝戦、王手がかかった副将戦で力を見せたのが富士ゼロックス上原祐二だった。中央大学の後輩にあたる高優司に対して、鮮やかなひきメン一本。その後の大将戦は引き分けに終わり、富士ゼロックスの優勝が決定。この全日本大会での優勝は実に25年ぶりという意外な快挙でもあった。

同社には今春から、中央大学3年時に全日本選手権大会で3位入賞経験のある梅ヶ谷翔が加入しているが、今回梅ヶ谷は日本代表の帯同選手として大会の前日まで韓国にて開催されていた世界選手権大会に参加。この実業団大会への参戦は叶わなかった。

ルーキーを欠いたかたちになった富士ゼロックスだったが、そんな中でAチームである本社チームに返り咲いたのが、長くチームを支え続けてきた上原だった。

福大大濠高校（福岡）、中大とつねにトップクラスの戦績を残してきた上原。社会人となっても富士ゼロックスの主力選手として活躍。東京代表メンバーとして全日本都道府県対抗優勝大会に

順／チーム	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス（本社）	米満 ㊒	岩川	東郷 ㊒	上原 ㊒	北川	3
			㊒		✕	3
		㊒			✕	1
パナソニック（ES本社）	吉村	山田	勝見	髙	足達	1

副将戦では上原のひきメンが炸裂（写真）。この一打で富士ゼロックスが大きく優勝を手繰り寄せた

準々決勝

副将
上原 ㊦— **渟**
富士ゼロックス・本社　東芝テック・本社

副将戦、積極的に攻めた若手の渟（みなもと）に対して上原は逆ドウ一閃（写真）

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス（本社）	米満	岩川	東郷	上原	北川	2
	><	><	><	㊦	㊧	2
東芝テック（本社）	千葉	尾崎	西浦	渟	鈴木	0

準々決勝

中堅
勝見 ㊁コ— **荒木**
パナソニック・ES本社　九州電力・本店

勝見が上段の荒木から鋭いコテを連取（写真は一本目）。二本の技とも電光石火の早業だった

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック（ES本社）	吉村	山田	勝見	高	足達	1
	><	><	㊁コ	><	><	2
九州電力（本店）	平井	吉田	荒木	平田	西村	0

準々決勝

次鋒
對馬 ㊧メ— **松下**
トールエクスプレスジャパン・本社　三井住友海上・神田

トールエクスプレスが先鋒、次鋒と二本勝ち（写真は次鋒戦の攻防）。前衛の3連勝で早々に勝利を決めた

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
トールエクスプレスジャパン（本社）	糸山 ㊦メ	對馬 ㊧メ	吉田 ㊁	安藤 ㊧	石井	4
					><	6
三井住友海上（神田）	吉谷	松下	井手	鶴海	関口	0

準々決勝

副将
兵藤 ㊧— **田中**
NTT・本社　東京海上日動・本店

リードを許す苦しい流れの中、挽回を期す田中だったが、同時に放ったひきメンは兵頭に軍配（写真）

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
NTT（本社）	榎本	竹越	渡部	兵藤	齊藤	3
	><	ド㊁	㊂	㊧	㊁メ	5
東京海上日動（本店）	勇	中	安川	田中	細貝	0
						1

原。自身の勝因については「準備」の大切さを挙げた。

「つねに準備を怠らないこと。今日も対戦相手は若い選手が多かったですが、まだまだ体は動きます」

実業団剣士となって15年目に叶った日本一の夢。表彰式、最優秀選手としてその名前が呼ばれた瞬間、彼の努力を称える大きな歓声が上がった。

「子どもが剣道を始めたんです。これで少しは自慢ができるかな」

手に持った最優秀選手賞の立派なトロフィーに目をやりながら、上原は微笑んだ。

するなど、第一線で戦い続けてきた勝負師である。そんな上原でも長く手が届かなかったのがこの全日本大会での優勝だった。

「悔ヶ谷がいないから負けた、と言われてしまうのは非常に悔しいところ。ひとつ意地を見せねばと思いました」

と今大会への意気込みを明かした上

準決勝

副将
髙 ㊁— **安藤**
パナソニック・ES本社　トールエクスプレスジャパン・本社

副将戦、正統派の髙に中堅戦での逆転負けの動揺は見られない。冷静に戦った髙が鋭いコテで勝利（写真右が髙）

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック（ES本社）	吉村	山田	勝見	髙	足達	2
	><	><	㊁	㊁	㊧	3
トールエクスプレスジャパン（本社）	糸山	對馬	コ反 吉田	安藤	石井	2 1

準決勝

大将
北川 コメ—㊁ **齊藤**
富士ゼロックス・本社　NTT・本社

齊藤がコテで先制するも北川は落ち着いてコテを返す（写真）。その後メンも追加し勝負を決めた

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス（本社）	米満	岩川	東郷	上原	北川	2
	㊁	><	><		㊧メ	3
NTT（本社）	榎本	竹越	渡部	兵藤	齊藤	2 1

6回戦 東京海上日動（本店）3（3）—1（1） セントラル警備保障（本社）

大将		
細貝	㊁—	安田

全日本選手権大会出場経験のある安田に対して細貝が鋭いコテを打ち込んだ（写真）

6回戦 NTT（本社）2（4）—0（1） 三井住友海上（本店）

次鋒		
竹越	㊁—	井口

次鋒竹越の鋭いコテでNTTが白星スタート（写真）。三井住友海上は副将戦も落としここで敗退となった

6回戦 パナソニック（ES本社）3（5）—1（2） 伊田テクノス（本社）

先鋒		
吉村	㊁反—	図末

開始すぐにコテ（写真）で一本を奪った吉村が、その後図末の場外反則2回で二本勝ち

6回戦 東芝テック（本社）4（5）—1（1） NTT西日本（本社）

副将		
澁	㊁—	寺田

副将寺田がコテに出ると澁はその打ち終わりをひきメン一本。その後、すぐさま時間となった（写真は攻防）

6回戦 トールエクスプレスジャパン（本社）0（0）代—0（0） 三井住友銀行（本店）

代表		
吉田	コ—	平田

代表に立つのは三井住友銀行は大将平田、トールエクスプレスは中堅吉田。吉田がひきゴテで勝利した（写真は攻防）

6回戦 富士ゼロックス（本社）1（2）—0（1） パナソニック（ES門真）

大将		
北川	㊓—	永井

両チーム勝ち星を奪えぬままもつれた大将戦は北川がメンを表から裏へと変化させて見事な一本を奪った（写真）

6回戦 九州電力（本店）2（2）—0（0） 富士ゼロックス（大阪）

副将		
平田	㊁—	渡邉

平田は相手の動きをよく見てコテを奪取、この1勝でチームの勝利を決めた（写真は攻防）

6回戦 三井住友海上（神田）2（3）—1（2） 三菱ふそうトラック・バス（九州）

副将		
鶴海	㊓—	村松

勝負どころの副将戦で力を見せたのは追われる立場の鶴海。1分ほどでメンを連取した（写真は攻防）

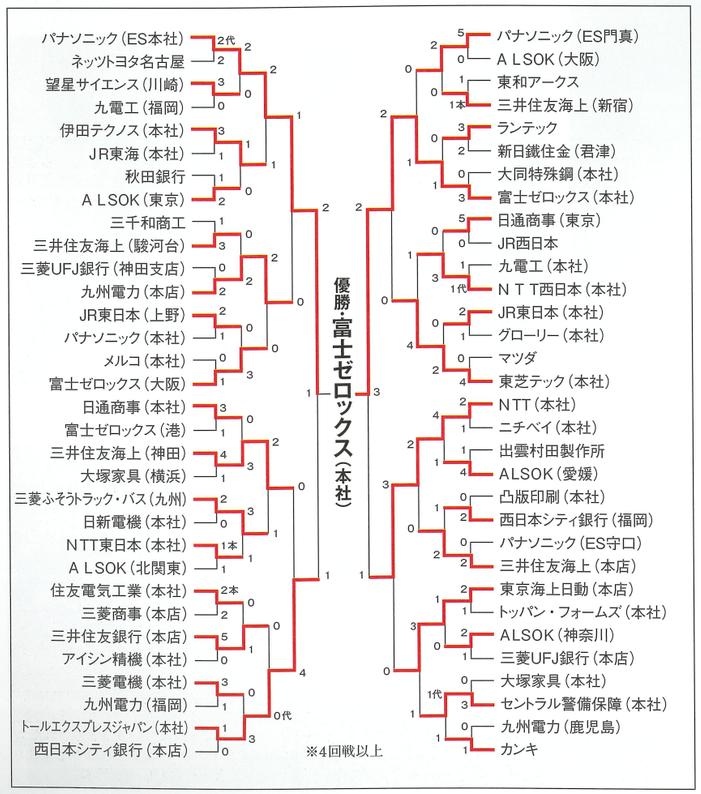
5回戦 三井住友海上（本店）2（2）—1（1） 西日本シティ銀行（福岡）

副将		
髙村	㊓—	濵地

一本勝ちでリードを奪う三井住友海上。副将の髙村メンを奪ってチームの勝利を決めた（写真は攻防）

2位 パナソニック（ES本社）

吉村大地（24歳）、山田侑希（26歳）、勝見健太（34歳）、髙優司（28歳）、足達翔太（28歳）、山田晋平（30歳）。監督＝中野寛之（38歳）



3位 NTT（本社）

榎本雄斗（26歳）、竹越充（31歳）、渡部晃（26歳）、兵藤裕則（26歳）、齊藤将吾（28歳）、佐藤啓（23歳）。監督＝谷裕二（49歳）

3位 トールエクスプレスジャパン（本社）

糸山泰史（24歳）、對馬康大（23歳）、吉田真佐義（33歳）、安藤淳（27歳）、石井秀平（28歳）、金崎聖司（34歳）。監督＝北口伊佐男（45歳）